

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園釜利谷	種別：認可保育所
代表者氏名：鶴見 真美	定員（利用人数）： 73名
所在地：〒236-0014 神奈川県横浜市金沢区釜利谷東2-15-8	
TEL：045-783-4250	ホームページ：https://www.like-kd.co.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2009年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員 6名
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士 2名
	保育士 17名 調理師 2名
	看護師 1名
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）
	乳児室3室、保育室3室、調理室1室、プレールーム1室 調乳室、トイレ、事務室、沐浴室、シャワー、屋上ひろば

③ 理念・基本方針

・こども理念：のびやかに育て だいちの芽：あたたかな環境の中で一人ひとりの心に寄り添い人や物・自然との豊かな出会いや体験を通して生きていく力を育てていきます。

・【保育方針】：みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛：3つの愛を意識し子どもファーストの保育

○みとめ愛：人を信じ尊重し、自分のことも友だちのことも好きと言えるみとめあう心、○みつめ愛：あたたかいまなざしに見守られ見つめられ、心地良く安定した心、○ひびき愛：ひびきあい、共感しあい、喜びと自信を持ってたくましく生きていける心

『めざす保育園像』：「陽だまりのような保育園」「地域と共に育つ保育園」・「子どもと共に輝いていける保育園」・地域の皆様も気軽に集い子どもたちを中心に保護者・地域・保育園が子育ての楽しさを分かち合い生き生きと輝いていける、そして、地域に愛される保育園を目指しています。

*保育目標 [めざす子どもの姿]・自然を愛し、心身ともに健やかな子ども・自分で考え行動し、意欲や根気のある子ども・「仲間」と関わり、人を思いやれる子ども・自己を表現できる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

開園して14年目、地域に愛され地域と共に育ってきました。本園を卒園した小学生、中学生また高校生が「ただいま」と言い園に帰り元気に成長した姿を見せてくれています。陽だまりのような家庭的な保育園で、気軽に立ち寄れる大きなおうちのよう施設です。施設は新しくないが、檜のぬくもりの床、机、椅子が子どもたちを包んでくれます。毎年、入園希望の方が見学にきて、横浜市が推進している子育て支援の企画も紹介し来園しています。園庭はありませんが毎日の戸外活動は、0歳児から行き地域の方との元気な挨拶や一緒に遊ぶなど楽しんでいます。

0歳児から5歳児までの流れるような保育を目指し、乳児期は「こころ」と育て幼児期は「知識」を学ぶ。

常に、「子どもファースト」を心がけ就学時には「10の姿」を身に付け卒園します。音楽を通じて友達と心を合わせて合奏、演奏をしています。保育の中では体を動かし、乳児クラスは「体操」を幼児クラスはダンス、バルーン、鉄棒、マット、跳び箱に挑戦しています。年長児クラスの「荒馬」「ソーラン節」は釜利谷の伝統になりみんなのあこがれとなっています。体操教室の他にさくらさくらんぼリズムを取り入れ、年齢ごとの子どもの成長に合わせ、上肢と下肢に働きかけ楽しんでいます。毎年新しいテーマを上げて食に対する興味、意欲が持てるように心がけています。食は大切な「生きる力」です。毎月の誕生会の行事食を作るなど給食室との連携も深めています。食育ではクッキング、ランチマット、コロナの流行でいち早くテーブルマスク、黙食を幼児クラスでは配慮しています。屋上では日よけや目隠しを付け、プールや屋上菜園をしています。行事では、普段の保育の成果の発表の場と考え、保護者の皆様にも我が子の成長した姿に感激し喜んでいただいています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月1日（契約日） ～ 2022年11月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

子どもの気持ちを受容し、成長に合わせた声掛けや援助に力を入れて取り組んでいる
0歳児から5歳児まで流れるような保育をし、子どもたち一人ひとりの成長に合わせ気持ちを受容した保育に取り組んでいる。子どもたちの興味、関心を高める声かけに努め、「やってみたい。」「やってみよう。」と意欲的に活動出来るように援助している。子ども一人ひとりに合わせた環境や成長に応じた丁寧な対応「子どもファースト」を心掛け、保育の中では保育者同士も互いに気付いた事はその都度声をかけあい保育の質の向上を目指している。

子どもが主体的に活動できる環境整備と保育内容に工夫をしている

園庭がない為、近隣の金沢自然公園、能見堂緑地や海の公園などに散歩に出かける機会を多く持ち、自然の中で十分に体を動かし経験、体験出来るように援助している。散歩先を子どもと相談して決めることもあり、安全に考慮しながら季節の自然物に触れ遊びが広がるように工夫している。

開園14年目となり、地域の方々や近隣の施設など関わりを持ち「地域に愛される保育園」として保育者一人ひとりが意識を高く持ち保育に取り組んでいる。

園は地域に開かれた「第二の家庭」となるよう取り組んでいる

地域交流に力を入れており、コロナ禍以前は高齢者施設や他園との交流も行っていった。地域子育て支援向け行事（親子広場、そよかぜ遊ぼう会等）を年数回実施し、園の保育に触れたり、子育て家庭同士の交流、育児相談などに積極的に取り組んでおり、育児相談、臨床心理士相談はSNSで案内している。また、卒園児や保護者が、通りがかりに声を掛けたり気軽に来園したりと、「第二の家庭」として地域の家庭的な保育園として役に立てるよう取り組みに力を入れている。

今後期待される点

保護者支援については継続的な課題としている

毎日の送迎時には、子どもの様子を丁寧に伝え、家庭の様子を聞き、些細なことでも話し合える関係づくりを目指している。しかしながら、コロナ禍においては、保護者の送迎は園の玄関までとなっていることもあり、園内の様子がわからないことや、行事の縮小等により交流の機会が少なくなっていること等から、さらに丁寧な説明や対応が求められるケースもある。保護者支援については継続的な課題としている。

働き甲斐ある職場環境づくりに取り組んでいる

募集・採用等多くの人事基準は本部に一任されており、本部と職員の「意向調査」「満足度調査」の結果にもとづく本部スーパーバイザーとの面談結果を本人にフィードバックしている。園のカラーに沿った職員の採用は難しく、配置後は何年もかけて育成に取り組んでいる。人材不足は継続した問題であるが、職員一人ひとりの気持ちや考え方を尊重した上で、信頼し合い、人間関係をスムーズにすること、さらに良い所や苦手な部分を認め合い、一人ひとりが働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園以来14年間「みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛」の方針のもと、保護者の皆様やお子さま一人ひとりにとって、「陽だまりのような温かい保育園」「地域に愛される保育園」を目指してまいりました。

本園にとっては3度目の第三者評価を受審いたしました。日々の会議等を通し積極的に取り組むべき内容や、継続していくことや改善すべきことを話し合い保育に反映させることを目指し実践してきました。

職員間の連携、また信頼関係を深め「チーム釜利谷」として一丸となり地域貢献、地域に愛される保育園運営を全職員で認識を深めることが出来良かったです。

保護者の皆様にはアンケートへのご協力をいただきありがとうございました。皆様からいただいたご意見やご期待に応えていけるよう、よりよい保育を目指していきたいと思っております。

最後に福祉サービス第三者評価機関「株式会社 ケアシステムズ」の調査委員の皆様には、きめ細やかに審査していただき評価していただきましたことを心より感謝いたします。

にじいろ保育園釜利谷の「子ども」「保護者」「職員」一人ひとりが「共に輝いていける保育園」であるように、職員一同努力をしていきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり